



# 学校だより

9月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawadai/>

横浜市立六つ川台小学校

平成26年8月29日

認めて ほめて 育てる

副校長 唸 美佐子

38日間の暑い夏休みが終わり、蝉の声だけが聞こえていた静かな学校に、子どもたちの元気で明るい声が戻ってきました。今年も各地で最高気温の記録を更新するような猛暑の日々でしたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか？

7月末の水泳学習には、毎日たくさん子どもたちが参加し、それぞれの目標に向かって練習に励みました。7月30日に六つ川小学校で行われた南区水泳大会には、4年生以上の29名の子どもたちが参加しました。仲間の声援に励まされ、自己最高タイムを出せた子も大勢いました。

水泳だけでなく、普段取り組めないことに挑戦した子どもたちも多いと思います。お子さんはどのような事柄に「おもしろい」「もっとやってみたい」といった興味をもったのでしょうか。何をおもしろいと感じるか、好きだと感じるかは人によって異なります。興味あることには、自然に意欲をもって取り組むことができます。そして、周りの大人の声掛けによって、さらにやる気を高めることができます。意欲、才能とほめ言葉について、生涯学習開発財団認定コーチの江藤真規さんは、著書で次のように述べています。

「好き」は、子どもによってちがいます。同じ家に生まれ育った姉妹でさえもちがいます。我が家でも、上の娘と下の娘は、小さいときから全くちがうことに反応していました。現在、理系に進んでいる上の娘は、小さいころは迷路やパズルが大好きでした。一つできればほめられる。速くできるともっとほめられる。子どもは好きなことをやるときも「ほめて」と要求してきますので、私も一つ一つ「できたね」「すごい」「天才だね」とほめていました。ほめられると、子どもはうれしくなって、毎日どんどんこなしていきます。誰かが家に来ると、ほめてもらいたくて「ほら！すごいでしょ！」と「好き」を披露します。お客さんの「えらいね！」は最高のほめ単語。ますます拍車がかかります。「パズルがこんなにも好きな娘は、きっと勉強も好きなんだろうな～」まだ、2、3歳の幼少期のころ、そんな上の娘の才能のかけらを、私はほめることによって見つけ出したように思います。いくら子どもがもっている才能でも、それをほめて磨いてあげなければ、ただの石と同じです。「算数のセンスがあるんじゃない！」と娘に投げかけてきたほめ単語は、もしかしたら、彼女が理系へと進むきっかけになっていたかもしれません。一方もう一人の娘に同じように迷路、パズルをやらせようとした私でしたが、興味をあまりもちません。すぐに嫌になってしまいます。無理矢理でもやらせたい心境もあり、何冊もパズルを買ってやらせてみましたが、やはり興味はないようです。「この子は、何が好きなんだろう？」という上の子の用事に付き合わされてばかりの下の娘は、待っている間、いつも本を読みふけていました。「ありがとうね。いつもご本を読んで待っていてくれて。今日はどんなご本を読んでいるの？」と、ほめながら聞いてあげると、「あのね！」本の話をする娘の目はいつもキラキラしています。「この子は本が好きなんだ！」彼女の才能のかけらが見つけられました。本を渡しておけば、何時間でも一人で読んでいる娘に「どんなお話なの？」「たくさん読めてえらいね」。彼女の「好き」をほめてあげると、そこから会話が始まります。お話の中に入り込んで、まるで情景が目に見えかぶように話してくれます。～

(「子どもに自信をつけ才能をのばすほめ単語 101」 江藤

真規著)

気が付いたらほめる。小さな何気ないことでもほめる。そして行動を促してあげる。そんな繰り返しで子どものやる気や才能はどんどん開花されていくのでしょうか。9月から秋に向けて、6年生の日光修学旅行、全校遠足や学習発表会などの行事がたくさんあります。一人ひとりの子どもたちが精一杯の力を発揮し、大きく成長することができるよう、学校でも努めてまいります。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。